

慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	Luxury brand所有企業の事業ポートフォリオ戦略の有効性
Sub Title	
Author	川越麻衣子(Kawagoe, Maiko) 鈴木貞彦
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1996
Jtitle	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001996-1253

学生氏名	川越 麻衣子 (株式会社グランシアン)	主査 鈴木 貞彦 副査 矢作 恒雄 山根 節
所属	鈴木 貞彦 研究室	

Luxury brand所有企業の事業ポートフォリオ戦略の有効性

Luxury brand所有企業がブランド資産を持続的競争優位の源泉とし新たな企業価値を創造するという相反するベクトルを両立させるような経営的枠組を構築することが本論文の目的である。問題提起は、「Luxury brand所有企業は、複数のLuxury brandを所有し事業ポートフォリオを組むことが優位ではないか」であった。それはLuxury brandが①希少性②完璧な商品へのあくなき追求③伝統や文化を尊重しつつ革新に向けた戦略を推進することという3点の特徴を持つブランドだからである。そこで、LVMHグループを事例研究とした。まず株主資本価値とブランド価値の相関関係を検討しさらにLVMHグループの経営的特徴を抽出した。その結果、Luxury brandを複数所有し、ポートフォリオを組ませることで効率的経営とリスク分散が図られ株主資本価値が向上しブランド価値にも貢献していることが確認された。今後、Luxury brand所有企業は、創業者一族による他人資本を入れない経営とプロフェッショナルな経営管理者が複数のLuxury brandを所有し事業ポートフォリオ戦略を行なう経営の二極化となり、その他の形態は淘汰されていくと思われる。そこで本論文では、後者を推奨し、さらに構築したLuxury brand所有企業の経営的枠組を提言したのである。